

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第6回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）地域協議会 会長会議について（公開）

（2）地域活動支援事業募集要項及び審査採択の基本的なルールについて（公開）

（3）自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について（公開）

3 開催日時

平成30年12月6日（木） 午後6時30分から午後8時14分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）橋本 勲（副会長）、秋山澄子、市橋邦夫、岩澤 弘、
笠原完治、小林春男、高橋善昭、土屋史郎、前川正治

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【佐藤係長】

・有坂委員、泉委員、植木委員、平原委員を除く10名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定に、議長は会長が務めることとあるが、本日は水澤会長が遅刻するので、地方自治法第202条の6第5項の規定により、副会長が職務を代理することになる。水澤会長が到着するまでの間、橋本副会長に依頼。

【橋本副会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：高橋委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

—地域協議会 会長会議について—

【橋本副会長】

次第3報告(1)「地域協議会 会長会議について」に入る。

11月14日(水)に地域協議会会長会議が開催され、28区からそれぞれ出席された。私が出席したので、報告する。

市からは31年度の地域活動支援事業の概要と、地域活動支援事業の目的・効果に照らした見直しについて、説明があった。

概要については、今のところ、まだ来年度予算が決まっていないので、予算等が確定した段階で、改めて正式に発表するとのことであった。

地域活動支援事業の目的・効果に照らした見直しについては、資料1のとおり、市の案として示された。

全区統一のルールとなると、各区のいろいろな諸事情があるので、それに囚われて進めていくとなると、制度として自由に活用するということの制約が出てくることから、各地域協議会の自由裁量により運用してもらいたいという説明であった。

なお、資料1の案については、平成31年度だけでなく、32年度以降の検討材料としても活用してほしいとのことであった。

市の説明後、他区の会長から、市統一のルールを作ってもらえないかという意見が出された。市からは意見としては受けるが、今回は提案どおり、各地域協議会による自由裁量で運用してもらいたいという説明があった。

その後、3グループに分かれて、各地域協議会で課題となっていることや検討してみたいことをテーマとして挙げながら、意見交換を実施した。

私のグループでは、自主的審議事項と地域活動支援事業をテーマに意見交換が行われた。

そこでは各地域協議会で現在検討していることや苦慮している部分についての話があった。特に自主的審議事項については、地域協議会で試行錯誤しているという話や審議経験のある区から意見を聞きたいといった声が出ていた。各区からいろいろな話を聞いた中では、印象として、和田区で進めている自主的審議事項の状況が一番具体的に進んでいるのではないかと感じた。

会長会議に初めて出席したが、印象としてはあまり活発な意見はなかったという感じであった。自主的審議に関する事項について、他区で参考になるものがあるかどうかと思っていたが、あまりなかった。

委員に質疑を求める。

【前川委員】

今説明があった中で、資料1の(2)その他の見直しの中の④、『市が行う事業』の取扱い共通化」で、その中の「部活動として使用することが主の資機材の整備、活動経費」について、和田区では今まで小学生のマーチングバンドの制服、楽器についての提案があり、地域協議会としては、委員が賛成し承認してきた。参考資料11ページ、②の中ほどには「ユニフォーム、防災機器、楽器について不採択としているが、採択している区もあり、市全体として問題ないか不安」ということが書かれている。その下には『物品の購入や施設等の整備・修繕のみを目的とした、活動を伴わない事業』を規定している」という文言がある。実際に和田区以外にも採択している区があり、学校事業で、教育関係の一環として、別の市補助金等が活用できるのであれば、地域活動支援事業の提案があっても、これは無視するべきなのか。あるいはこの地域活動という中で、小学生がユニフォームや楽器を、町内会からの依頼により町内で披露したり、町の活動に参加するために必要なものとして提案しているということであれば、それはよいのか。

私はそういう理由で賛成し、今まで丸を付けてきた。そのあたりについては、ルールを全市的に統一するべきではないかと思うのだが。

【橋本副会長】

運用の仕方について、全市統一したルールがあれば、逆に我々委員が審査しやすくなるということか。

【前川委員】

そのとおり。どこの区も疑問を持っているのではないかと思う。そのあたりをきちんと会長会議の中で議論してもらい、統一してもらった方がよいと思う。学校関係に関わるものは、特に疑問視される人もいるのではないかと思う。

【橋本副会長】

和田区では大和小、和田小両方とも。

【前川委員】

楽器やユニフォームを買うにしても、みんな今まで。

【橋本副会長】

今のような迷いがあるとしても、和田区地域協議会では検討しながら採択をしている。買ったものの運用について、いろんな活動で活用するからよいとしている感じ。市のルールとして統一した方がよいという意見を投げかけてもらったわけだが、いかがか。

【小林委員】

柔軟に対応できる方がよいと思う。例えば、ユニフォームを買うこと自体を禁止するというのはうまくないと思う。いろいろな形があるので、一律に駄目だというのではなく、ケースバイケース、柔軟に対応できるようなので、私はよいと思う。

【高橋委員】

参考資料の11ページに「不採択としているが」となっているが、その不採択となった経緯というか、最初からもうそれは駄目ということで不採択にしたのか、それとも各予算がある中でいろいろと事業が出てきて、それで不採択になったのか、そのあたりがよく分からない。最初からこういうのは受け入れないという感じで不採択にしているのか、どういう経緯でそうなったのか分からない。

【橋本副会長】

採択する時に、予算がいっぱいだから、不採択というのか、予算があるから採択という決め方でやっているということか。

【高橋委員】

予算に収まるのであれば、採用しようという感じなのか、それとも最初からそういう事業は不採択にしましょうという風に決めているのか。

【橋本副会長】

基本的なルールからすると、楽器の購入だけでは、現在は駄目である。和田区の場合もそうだが、購入後、活動を伴う必要がある。

【高橋委員】

元々そのようなルールが存在しているということか。

【橋本副会長】

そのとおり。ハードだけの運用は駄目なので。

【高橋委員】

駄目なのだが、それをよしとしているところがあると。

【橋本副会長】

他の区でもそのような形で対応しているというところもあるようである。最初から認めないのではなく、今までどおり、そのようなケースが出てきた時に検討する。そういう余裕を残しておいた方がよいのではないかという意見がある。

和田区としては今までどおり、そのような案件があった時に地域協議会で検討する。これは予算にもよる。予算がぎりぎりなのに、もっと大事な部分をないがしろにする訳にはいかない。今までどおりの形で、出てきた時にそのようなことを頭に置いて精査する。和田区としては今までどおりのルールでよいのではないか。

【前川委員】

和田区の優先採択事業にも記されているように、教育・文化・スポーツの振興の中に、文化交流促進事業が入っている。それに合わせた中で活動してもらっているのだから、問題ないと思う。ただ他区で不採用にされているのであれば、全市統一のルールの方がよいと思う。

【橋本副会長】

全市統一したルールがよいという意見はあるが、和田区としては今までどおりの流れの中で、そのような案が出てきたら、その都度協議して対応するということで

よいかについて諮り、委員の了承を得る。

(水澤会長到着)

【佐藤係長】

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めるとあるので、ここで議長を水澤会長に交代する。

【水澤会長】

今ほど地域協議会会長会議の内容について、橋本副会長から説明してもらい、委員からいろいろな意見が出された。最終的には運用方針などは、各地域協議会の裁量に委ねるということになっている。今後も和田区地域協議会委員の意見のもと、裁量で運用していきたい。

—地域活動支援事業募集要項及び審査採択の基本的なルールについて—

【水澤会長】

次に、次第4議題(1)「地域活動支援事業募集要項及び審査採択の基本的なルールについて」に入る。

先般委員に、和田区の地域活動支援事業に関する意見の提出をお願いし、資料No.1のとおり市橋委員と高橋委員の2名から提出してもらった。市橋委員からは、現状通りでよいとの回答であった。意見を出していない委員は、現状のままでよいかについて確認し、了承を得る。

本日は、高橋委員の意見について改正案に反映するかどうかを協議し、採決を行いたいと思う。

それでは、高橋委員に説明を求める。

【高橋委員】

現在、和田区の採択方針として、優先採択事業が7つ挙げられている。その内容を今一度顧みて、この中で半分くらいに削り、その中からさらに最優先して採択する事業を決めた方がよいのではないかと考えている。今回の雪イベントの件もあり、地域協議会から関係団体に対して提案していることもあるので、雪イベント事業を

最優先で採択したらよいのではないかと思います、提案した。

【水澤会長】

高橋委員がいう優先採択事業の見直しというのは、7つの優先採択事業全てを見直すということか。

【高橋委員】

私の主観だが、例えば、優先採択事業の中にある「新幹線開業に伴うまちづくり」は、開業して3年以上経つので、事業として本当にやりたいのであれば、地域活動支援事業補助金に頼らなくても、自己資金等で実施することができるかもしれないので、これを優先採択事業に入れる必要はないのではないかと。次の「環境の保全・活用」も事業としては非常に規模が大きく、地域という部分からは、かけ離れた感じがする。本当に事業をやるとなれば、地域活動支援事業というよりも、市の事業としてやってもらうべき内容になるのではないかと思います。

【小林委員】

雪イベントの実行委員会立ち上げを関係団体をお願いしていることもあるので、今後、実行委員会から事業提案されれば、優先的に採択されるべきだろうと思っている。また、予算の裏付けがないと、事業計画を作成する団体としても身が入らないし、何らかの形でお墨付きを与えるべきだと思う。

【水澤会長】

募集要項について、高橋委員から意見として出されているので、これを変更するかどうかに尽きる。基本的に最優先して採択する事業を、新たに作るということではないのか。

【高橋委員】

今ここに7つ挙がっている優先採択事業の中で、自分が一番大事だと思うのは「住民自治・交流の促進」という部分だと思っている。

意見交換会の時に、大和小学校のPTA副会長から話があったが、雪イベントをやるにしても、「和田」という地域名を入れられると、子ども達はよく分からず、親達も違和感を感じる人が多いという発言があった。そのあたりが、和田区という括り（くくり）はあるが、きちんと理解されていない。だからこそ、それを理解して

もらうための雪イベントとして、地域間、和田小学校区、大和小学校区の皆さんが一同に介して交流するという事で、区に一番大事な事だと思ふ。

【水澤会長】

高橋委員のとおり、先般の意見交換会の中での大和小学校PTA副会長の話は、私も気になっていた。今の若い世代の保護者、それから子ども達を含めて、多分和田区という意識が薄いのかなと思ふ。和田区では2小学校区があるので、そのあたりにギャップがあると感じた。

高橋委員がいう最優先することを、例えばこの7つを消すのではなく、「住民自治・交流の促進」ということを、順番を変え、一番上に持って行くという形でもよいか。各団体から、いろいろな事業提案が挙がってくると思ふので、今までもそうだが、様々な団体が応募できるような形にしておくという事で、この7つの項目が皆さんから提案され、現在も続けられている。その中で最優先ということをするのであれば、「和田」という地域名を若い世代や子ども達に意識してもらうために、その部分を最優先採択事業とするどうかである。

【笠原委員】

募集要項を変えるというのは大変な事だと思ふ。募集要項については、かなり近年浸透してきている。事業を提案する側からすると、非常に多面的であるため、提案がしやすい。だから、今まで提案がなかった事業も出され競争になる。これは非常によい事だと思ふ。

高橋委員の意見も理解できるので、地域協議会委員の中で採択を決める際のルールなどで、工夫していくべき話ではないかと思ふ。提案者側から見て非常に多面的な視点で作成された優先採択事業については、変えられないと思ふ。

【橋本副会長】

優先採択事業については、どれを見てもどれをとっても、解釈の幅が広い。その年その年の状況で、例えば「住民自治・交流の促進」が一番大事な事業であれば、採択時の採点などで評価すればよいのではないか。内容を変更するよりも、むしろ評価の際に検討するという考えでできないか。

【水澤会長】

雪イベントの提案を協議会からお願いしているわけで、最終的に例えば補助金申請が出た時に、どのように取り扱うかというのは、委員一人一人の考え方だと思う。

高橋委員の思いは多分皆さんも分かっていると思うが、やはり採択の最優先と記してしまうと、出来レースみたいなことになり兼ねないので、今までどおり優先採択事業については現在の項目で、やはり募集をかけた方がよいのではないかと感じる。何か一つを最優先にすることになると、なぜという形になってしまうので、これはやはり幅広く、いろいろな団体から応募してもらおう形を取っておかないといけないと思うので、その中に雪イベント実行委員会ができて、そこで提案があったら、それを私達がしっかりと吟味すればよいと思う。高橋委員どうか。

【高橋委員】

はい。

【水澤会長】

高橋委員の思いも分かったと思うし、次年度の募集、それから採択審査については、よい採択審査ができると思う。

改正の提案は反映しないことについて諮り、委員の了承を得る。

平成31年度募集要項、審査採択の基本的なルールの改正はしないということについて諮り、委員全員の了承を得る。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

【水澤会長】

次に、次第4議題(2)「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

11月15日に開催された「和田区雪イベント実施」に伴う和田区関係団体との意見交換会では、12団体の皆さんから集ってもらい、和田区地域協議会で作成したイベント企画書(案)を説明した後、意見交換を行った。

初めての意見交換会だったが、全体的な印象として各団体からは比較的、開催に向けた前向きな意見があったように感じた。

ただし、実行委員会の立ち上げに関連して、主催者として加わってもらえるかどうかについて、各団体からの即答は厳しいため、いったん持ち帰ってもらい、次回の意見交換会までに、団体内でよく検討してほしいとお願いし、1回目の意見交換会を終了した。

本日は、12月10日に開催予定の第2回意見交換会の進め方や役割分担の確認と合わせ、開催に向けた議論がさらに進むよう、資料を用意した。また事務局より、各団体に雪イベントに参加してもらえるかの意向を事前に確認してもらったので、資料No.2とあわせて説明をお願いする。

【佐藤係長】

2回目の意見交換会の前に、各団体をお願いしてあったイベント参加についての検討結果を事務局で確認した。

- ・「和田地区振興協議会」・・・特に反対意見はなく、地域のイベントということなので、基本的には参加していきたいという前向きな意見。
- ・「和田体育協会」・・・3月にバレーボール大会のイベントがあり、その時期に協会の会議で諮りたいと考えており、今の段階では即答できない。
- ・「和田小学校PTA」・・・PTA会長からは前向きに検討するとの発言あり。地元のイベントなので協力していきたいとのこと。ただし、PTA会長は任期が1年であり、3月で任期が終了してしまうので、役員改選時は新会長に引き継ぎ、取り組んでいきたい。
- ・「大和小学校PTA」・・・PTA会長の個人的な考え方とすれば賛成。まだPTAとして正式な役員会で諮っていないので、今の段階では即答できない。
- ・「上越妙高駅周辺事業協同組合」・・・参加に向け前向きに検討していきたい。
- ・「上越市新幹線駅周辺地区商業地域土地利用促進協議会」・・・参加に向け前向きに検討している。
- ・「吹上釜蓋遺跡応援団」・・・今の段階では検討中なのではっきり言えないが、応援団の構成メンバーは年齢層が高く、現実的に参加するのは厳しいと思われる。
- ・「大和倶楽部」・・・参加協力は可能である。
- ・「上越市消防団上越方面隊和田分団」・・・基本的に賛成は可能と思うが、イベント

への関わり方としては、動員とか、何かお手伝いの的なもので関わるというやり方になる。例えば夜警という形で火の元の関係で回るなど、多くの人員が必要になる場面の手伝いは協力できなくはない。

- ・「上越妙高駅と歩む会」・・・団体が行っているひなまつりの事業と時期的に重なるので参加は厳しい。
- ・「脇野田ゆかりの会」・・・参加協力は可能である。
- ・「J-Mエコーズ」・・・参加協力は可能である。

今の段階で、検討中という団体があり、12月10日の段階でそれが覆るかと言となかなか厳しいと思うが、現段階での回答については以上である。

資料No.2については、雪イベントを和田区で開催することに伴い、複数の団体から組織されたイベントの実行委員会を立ち上げた場合、具体的にどのような運営組織になるかイメージしてもらうために用意した。たたき台なので、当然実行委員会が立ち上がったら、その実行委員会の中で正式なものを決めてもらえばと思う。

【水澤会長】

今の説明について、質疑を求める。

【笠原委員】

各団体の考え方を聞いたが、皆さん前向きに参加すると言われる。

ただし、自ら手を上げて実行委員会の事務局になると発言した団体は全くいなかった。実行委員会を立ち上げるのは、大変であることを感じたところ。

前回の意見交換会后に、1、2団体の関係者と実際に話をした。地域協議会では、実行委員会を立ち上げ、その後いろいろな角度からイベント内容を選んでもらうのがよいと考え、内容を広げたが、説明を受けた団体からは、総花的でなく、もっと内容を絞って決めてほしいという意見があった。また、継続性がキーワードとなっていたので、最初は無理をしないでスタートしたらよいのではないかという意見もあり、納得できたところもあった。最後にお金のことが出て、事業を行う以上優先的な予算付けをしてほしいという意見であった。

2回目の意見交換会では、団体からその気になってもらう必要がある。リーダーになってもらえるような団体が出てこない。雪イベントに参加はするが自らは汗

をかかないという団体が多い気がする。もう少し脇を固めて、意見交換会を迎えた方がよいと思う。

【水澤会長】

笠原委員のとおりだと思う。2回目の意見交換会をどのように持って行き、参加意向を示してもらえる団体から、本当に意欲を持って実行委員会に入ってもらえるような形にしていきたいと思うが。他に意見を求める。

【市橋委員】

「事務局を引き受ける」と言ってくれる団体が現れるのは難しいと思う。

【笠原委員】

まずは実行委員会に入ってもらいたい。そこがスタートである。

【水澤会長】

そのとおり。諸手を挙げて参加される方はなかなかいないと思う。ただ、私達地域協議会が団体に提案したのもので、丸投げされては困るという団体の意見もあった。だから、私達もそこに関わりつつ、当然関係団体には所属している皆さんも何人かいるので、ぜひ委員の皆さんからもそこに加わってもらい、一緒に組織運営をしていくという形が取ればよいと思う。それからやはり継続的にやるイベント、それを最初のスタートとしては、どのくらいの規模でやったらよいか。基本的なイベントの大きさとか、そのあたりを含めてしっかりと提案した方がよいのではというように考える。

【土屋委員】

やはり笠原委員が言ったことに尽きる。逆に実行委員会を立ち上げて、どのようなアプローチで持っていくのか。どうしたら実行委員会ができるのか。

【水澤会長】

ちなみに、提案したのは地域協議会委員なので、雪イベントの担当としてどこかに入っていていただく。これは地域協議会委員として入るのではなく、地域の個人として、例えば、土屋委員が釜蓋遺跡公園のイベント担当として、団体組織に加わってなくても、関わっていくのがよいと思う。地域協議会委員としてではなく、一地域の住民、個人として関わって行く形でよいと思う。

【土屋委員】

いつまで話し合いをしても、これだけの団体がいるし、まとめられないと思う。笠原委員のとおり、総花的なものを提案するのではなく、何かこれをやってほしいというものを示してあげないと。

それと、予算がどのくらいかかるといった、ある程度の指針を示してあげなければ、実行委員会すら立ち上げられず、「ただ賛成する」だけで話が終わってしまう。

【高橋委員】

大和小学校と和田小学校の交流イベント的なものを冬季にやる。地域全体となると大き過ぎるので、まずは小学校同士の交流イベントをやることで、親御さんも関わってくるわけだし、子ども達が何かやるのであれば、みんなが協力するような感じの方がよいと思う。

【水澤会長】

例えば子ども達を中心にしたイベントにしてしまうとか。

【高橋委員】

それでもよいと思う。そこで親御さんも協力するみたいな方がよい。そこに協力してくれる団体が現れれば、その人達も巻き込んで。子どもも大人も楽しくできるような感じのイベントをイメージしている。

【水澤会長】

笠原委員のとおり、骨となるような具体的なイベントを一つ決めて提案した方がよい気がする。

【笠原委員】

体協とPTAがこのイベントを引っ張ってくれば、非常によいと思った。ところが、この二つの団体には問題がある。体協は3月にファミリーバレーボール大会が行われる。これは相当大変らしい。だから2月に雪イベントを開催するのは厳しいというのが体協の会長の印象。PTAは役員が代わり過ぎる。任期が1年しかないなので、交代する際は申し送り事項となる。

なぜ雪イベントを開催するのかという根底には、若い人達の力を引き出すことが理由の一つとしてある。これは、自主的審議事項にもあるリーダーの育成にもつな

がる話である。そのためには若い人に運営してもらって、力を引き出して、毎年続けてもらえばベストだと思っていた。高齢者だけ集まってもどうなのか。それも忘れてはいけないと思う。高橋委員のとおり、PTAや体協が一緒になって動かすというところからスタートしたいと思うのだが。

【高橋委員】

例えば学校の教職員にも協力してもらおう。学校を巻き込めば、話が結構スムーズになるのでは。

【秋山委員】

学校の先生を巻き込むというのは、現実的には無理だと思う。学校の行事関係に持っていくなれば先生も引っ張り出せるが、そうでなければと多分無理だと思う。

【水澤会長】

笠原委員のとおり、なかなか簡単ではない。先ほどあったように、吹上釜蓋遺跡応援団の代表は、思いはあるが、やはり高齢者の大勢いる団体はなかなか関わり方が難しいというのは当然だと思う。ただし、いろいろな応援はしてくれると思う。地域の若い人達がどのように関わってくれるか、これを期待している。ぜひ若い人達を引っ張り出して、リードしてもらえそうな雰囲気を作ることが大事だと思う。

私はこの間、大和小のPTA副会長、あの人は、会長をやった後にまた副会長をやっている。会長を結構長くやっていて、私も何度か会って話をしたこともあるが、多分地域のPTAの中に、会長経験者がいるので、その会長経験者と話をしたりすることは大事だと思っている。これから当然任期ごとに会長は代わってしまうが、その人達は当然会長経験をして、地域にいるわけで、いろんなことを知っているし、その人に少しお願いしてみたらどうかという思いもある。和田小のPTA会長は、本当に積極的にやろうとしているし、ただ自分の任期が終わってしまうと関わり方が変わってしまうという考え方なのだと思うが、それはまたどうか。PTA会員でなくなったとしても、この地域の住民であるのは変わらないので、いろんな形でそういう人選も含めて、積極的にやっていただける方をピックアップしたいと思う。ただし、2回目の意見交換会では、実行委員会の組織として、すぐに立ち上がるわ

けではないと考える。

意見交換会としては最終にしたいと思うので、その後実行委員会として立ち上げていくためには、私達がどんな準備をしていくか。時間はないが、残りの時間の中で考えていただきたいと思う。

【小林委員】

まずは実行委員会を作って、どんなイベントをするのかということを検討してもらい、企画書を作ってもらえばよいと思っていた。それが難しいということになれば、イベント企画に長けた人はいないか。そういう人から企画を依頼して作ってもらって、提案してもらおうというのも手だと思う。時間がないので、難しいかもしれないが。

【土屋委員】

新幹線開業時に千個くらいの灯籠を設置したと思うが、あのイベントの主催者は誰か。

【水澤会長】

開業イベントは、全て市でやったのでは。

【笠原委員】

ノウハウを持った団体はある。上越妙高駅と共に歩む会、脇野田ゆかりの会、これらの団体はイベントのノウハウを持っている。ノウハウのある団体は、何をやるのかがイメージできている。実際に提案書も作成している。

【水澤会長】

地域活動支援事業の提案はしている。

【土屋委員】

脇野田ゆかりの会がよいのではないか。コンコースでいろんなものを販売したり、コーヒーを出したり、いろいろなことを行っている。

【水澤会長】

最初から、イメージの中にある実行委員長を誰にするかと言うと、多分決まらないと思う。

【笠原委員】

ノウハウのある団体に対して、もっと突っ込んで考えてほしいとか、ノウハウを
買うようなことまで、思い切って決断するかどうか。

【水澤会長】

資料No.2にある総務担当。それから、釜蓋遺跡公園と上越妙高駅周辺のイベント
担当。それから広報担当。最初からこの資料の中に団体名等を書くわけにはいかな
いが、当日の意見交換会の中で、どこかに加わってほしい旨の話はできないかなと
思う。

【市橋委員】

会長の言うことは分かるが、「では私の団体はここに所属する」というのは難し
いと思う。ただ入っただけでは前に進まないし。上越妙高駅と共に歩む会とか、脇
野田ゆかりの会に、まずリーダーとしていろいろなイベントのノウハウを教えても
らうような方向でもっていかないと。消防団がやってくれば一番よいのだろうが。
若い人となると、もうそれしかない。でも最初から若い人ばかりを取り上げて、リ
ーダーになってもらうように話をするのも難しいし、逆に前に進まなくなってしまう。
ある程度、団体の中からピックアップして、この代表の皆さんから、団体は関
係なくして、実行委員会に入ってもらった方が話は進んでいくのではないかな。

【橋本副会長】

難色を示している団体はあるが、実際に意見交換会に出席するのか。

【佐藤係長】

現在のところ、全団体から出席の報告を受けている。

【橋本副会長】

実行委員長になってもらうということではなく、実行委員会の担当になってもら
う話を各団体にできないものか。

【市橋委員】

そのくらいに進めていかないと、全然進まないと思う。

【橋本副会長】

出席する団体は1名ずつというわけではないのか。

【佐藤係長】

基本的に団体ごとに1名の出席であるが、振興協議会は会長を含めて6名の出席予定である。ここにいる委員の中にも振興協議会の役員がいるが。

【水澤会長】

各団体に雪イベントに参加できるかどうかの意向を確認してもらった。一部の団体は役員、代表者だけの思いというところもあるし、もう少し先にならないと結論が出ないと回答した団体もあるが、基本的には、関わってもよいという団体は、どこかの担当に入ってもらおう。そこで実行委員会をスタートしてしまう。その中で、丸投げではいけないので、高橋委員のとおり、子どもを中心にしたイベントに特化してスタートするというだけでもよいと思う。だからそこにPTAが関わることができる。

【橋本副会長】

企画書（案）には、結構子どもに関わるものはあった。

【水澤会長】

そのとおり。ただ笠原委員のとおり、何でもできるようにイベント内容を広げてしまったので、逆に焦点がぼやけてしまったのかもしれないし、継続的にやるということになれば、最初のスタートからイベントの内容を広げないで、もう少し絞り込んだ形の内容にして、それを拡大していくような形を。

本当に若い人達を巻き込んでいくのならば、まず和田地区の子ども、いわゆる和田小学校区と大和小学校区の子どもの、「和田」という意識付けをしてもらうためにも、それからその保護者の方々と関わりを持てば、和田という地域の思いというのも伝えていけるのかと思う。

【橋本副会長】

中学生は駄目か。

【水澤会長】

そんなことはない。

【橋本副会長】

イベントによっては。中学生になったら和田も大和も一緒になるので。だからどんなことをやってもらいたいという提案はした方がよいかもしれないと思う。

【水澤会長】

意見交換会の日、具体的にこんなイベントにしようというような、逆に私達委員から、こんな規模の、こんな内容でスタートしないかというような投げかけができればよいのだろうか。企画書（案）には、地域ごとに参加できる雪合戦があったし、雪灯籠の設置も出ていた。様々な人達に関われるように、いくつかの提案を挙げることも必要だと思う。

【笠原委員】

意見交換会では、これだけの人数の人が来るとすれば、それぞれの団体組織で何ができるかについて考えてほしいと話をする。団体からはっきりとした回答が来なかったら、私の理想は、PTAと体協に、できるものを出してほしいとお願いしたい。

【市橋委員】

体協が本当にできるのか。3月にバレーボール大会がある。

【笠原委員】

2月に雪イベントを開催するとなると難しい。

【市橋委員】

そうすると次年度の実施は厳しいということか。

【笠原委員】

次年度にやらざるを得ないというのであれば。

【市橋委員】

そうだが。

【高橋委員】

この前の意見交換会で、雪イベントの説明をして、ほとんどの団体から協力すると回答してもらったが、リーダーがいないと何をやったらよいか分からない。脇野田ゆかりの会からリーダーになってもらって、各団体と協議してもらうのが、方向性も決まって、動き始めるのではないかという感じがある。

【前川委員】

元々若い世代の活動と地域のリーダー育成のための雪イベントなのだから、PT

A、体協が中心になってもらいたい。次回は、会長や副会長からPTAにお願いし、実行委員会に入ってもらえるように話をしてもらおう。そして、お金を掛けないイベントで、かつ継続的に開催してほしい旨をお願いする。その場で実行委員会の立ち上げについての話までもっていったらどうか。

【水澤会長】

前川委員のとおり、意見交換会は来週の月曜日なので、その場で実行委員会を立ち上げられれば一番よいのだが。

意見交換会の前に、体協の会長とPTAの両会長に、このような意見が委員からあることを話しておきたいと思う。高橋委員のとおり、イベント自体は、イベント会社の仕事をやっている人はできると思うが、この地域の中のリーダーになってもらうわけにはいかないと思う。やはりバックアップしてもらいながら、ノウハウを教えてもらうことは非常に大切で、そういう人がいなければできないと思う。いろいろな団体毎に特色があると思うので、それに見合った協力をしてもらいたいと思う。この間の意見交換会でも話が出たが、南部振興会から、駅周辺事業協同組合という組織があり、その組合を通じて、イベントの補助金申請を行うことはできないという話があった。ただ、組合独自で事業をするのではなく、地域を巻き込んだ事業として行った場合、補助金対象になるかを確認したわけではないらしい。ただし、この組合の組合員である事業者からはいろいろな協力はもらえると思う。そのように各団体にはいろいろな特色があって、いろいろな協力をもらえると思うので、次回の意見交換会で、どんな協力ができるか、そんな意見交換会にしていければ、具体的になってくるのではないかと思う。地域協議会委員として、子ども達、そして若い人達を中心としたイベントにしたいということを意見交換会で話をすることにより、そこにPTAの関わり方も出てくると思う。

【岩澤委員】

小学校PTA会長が中心になっていろいろされるのだろうが、結局、そのPTAの中にも経験豊富な人とか、いろいろな素晴らしい人材がいると思うので、そういう人達をPTA会長から推薦してもらい、入ってもらおうというのも一つの手ではないと思う。

【水澤会長】

資料No.2を、意見交換会時に地域協議会の提案として、関係団体に示してよいかについて諮り、委員の了承を得る。

当日までに、私も少し事前調整をしておきたいと思う。12団体の方が出席するので、そこでまた私達委員の思いも伝えられればと思う。

実行委員会を作った際は、丸投げではないということ、そして地域協議会委員についても実行委員会の中で何らかの形で関わって一緒にやっていくことについて諮り、委員の了承を得る。

【岩澤委員】

委員がどこの担当に入るかということをつかせるようにしてもらえば、それぞれ話し合いもできるのではないかと思う。

【水澤会長】

次回の意見交換会の役割分担だが、前回同様に全体の議事進行は橋本副会長が、意見交換時の議事進行は会長でよいかについて諮り、委員の了承を得る。

【前川委員】

前回は説明したが、企画書（案）について、たたき台ということで説明したが、各団体からは、全ての内容をやらないといけないのかとか、大変だと発言する団体がたくさんいた。これはたたき台だから、これを参考に内容を考えてほしいと話しているが、それを少し勘違いしている団体が多いようだ。

【水澤会長】

そこはまたもう一回、しっかりと理解してもらうように説明していきたいと思う。

—事務連絡—

【水澤会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・今後の日程の確認

第2回和田区関係団体との意見交換会

12月10日（月）午後6時30分～ 和田地区公民館2階多目的室

第7回地域協議会

平成31年1月下旬を予定しているが、後日、日程調整

・配布資料

上越市創造行政研究所ニュースレター

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。